人生100年時代の楽しみ方

第13回

二拠点生活で都会と田舎を半分ずつ楽しむ

篠原 克周
フリーランスライター

ロンドンビジネススクールの教授、リンダ・グラットンが著した本『LIFE SHIFT ― 100年時代の人生戦略』が注目され、日本でも「人生100年時代」という考えが知られるようになりました。みなさんは、もし100歳まで生きるとしたら、どんな人生を送ってみたいですか。ここでは、人生100年時代を楽しむための、ヒントやアイデアを探ります。第13回のテーマは「二拠点生活で都会と田舎を半分ずつ楽しむ」です。

●都会と比べて不便なのは仕方がない

老後はのんびり田舎で暮らしたい。そんな晴耕雨読のようなライフスタイルを夢見る人は少なくありません。最近は、コロナウイルス感染拡大を防ぐ目的や、テレワークなど働き方の変化も相まって、人口が集中する都会を離れ、田舎暮らしを考える人も出てきました。人生100年時代で定年後に数十年の人生があることを考えれば、セカンドライフに向けて、これまでとは異なるライフスタイルを検討してみるのも良いかもしれません。

そこで今回は、田舎暮らしのメリットとデメリット、実践する際の心構えなどを考えてみます。田舎暮らしといえば「自然が豊富」「家が広くて安い」「ストレスが軽減」「アウトドアでの趣味が楽しめる」「満員電車や交通渋滞を避けられる」などのメリットがあると思います。その反面、「スーパーやコンビニが遠い」「病院通いが不便」「車がないとどこにも行けない」「近所づきあいがわずらわしい」などのデメリットもあげられます。

まず都会と比べて不便な面があるのは仕方がありません。田舎ならではの人間関係もうまく馴染めるかどうか。それらとどう折り合いを付けるかで、田舎暮らしの楽しみ方に差が出る気がします。生まれ育った環境や文化が違うわけですから、都会のルールや考えが抜け切らない人だと辛くなるかもしれません。やはりいきなり完全移住となるとハードルが高くなるので、例えば本格的に移住する前に、自分がどこまで対応できるか試してみるというのはどうでしょうか。

●お試し移住や体験暮らしでイメージする

ここ数年の田舎暮らしブームの影響もあり、自治体によって「お試し移住・体験暮らし」を実施している所があります。そういうサービスを利用してみるのも一案です。自治体が用意した古民家や住宅などの宿泊施設には、生活に必要な家具、家電、調理器具、寝具が揃えてあったりするので、気軽に田舎暮らし体験ができます（交通費、食費、洗濯、衛生用品などは自費）。

さらに、定住後の仕事をイメージしやすくするために、現地の農業や漁業の就業体験ができる職業体験ツアーを実施している自治体もあります。これらを活用して「お試し移住」することで、実際にその土地の人とふれあい、地域の環境を把握し、自分た

ちに合うかどうかの判断材料を集めていくわけです。

その他に「クラインガルテン」（滞在型市民農園）という施設を利用する手があります。クラインガルテンは200年ほど前にドイツで生まれた農地の賃貸制度です。現在、日本でも同様の施設が全国で60ヶ所ほど運営されており、敷地内に農園付きの小規模住宅が配置されています。使用料金は年間40万円（光熱費別）ほどで、契約が一年ごとというのも気楽です。自給自足の生活に憧れる人にとっては、短期滞在しながら田舎暮らしが自分たちに合うかどうか予行演習できるので、もってこいの施設と言えるでしょう。

●都会と田舎に二つの生活拠点を持つ

最近は、都会の生活者が、いきなり田舎暮らしをする大変さも知れ渡り、はなから「完全移住は難しい」と諦める人もいます。思い切って都会の暮らしを全て捨てたものの、もし田舎での生活がうまくいかなくなった時にどうするか。そんな不安がよぎるからです。

やはり「終の棲家」と思うと余裕がなくなってしまいます。そんな人たちが目をつけ出したのが「二拠点生活」です。コロナウイルスの感染拡大対策として、多くの企業がテレワークを導入し、働き方が多様化したことも二拠点生活を後押ししています。これなら完全移住より意気込まずに実践できる余地があります。

都会と田舎に住まいを持つなんて、富裕層が楽しむイメージがあるかもしれません。しかし、最近は普通の人でも都会と田舎に生活拠点を持ちやすくなっています。実は田舎には300万円台から買える土地付きの古い空き家があり、DIYで自分好みに

リノベーションして楽しむ人もいます。また自治体によっては空き家対策として無料で空き家を貸し出したり、地方振興を目的に二拠点生活の希望者を支援するため、移住支援金などのサポート（一定の条件あり）を実施しているところもあります。さらに都会と違い、アパートも家賃がひと月1万、2万円からの地域もあったりします。

もちろん二拠点生活にもデメリットはあります。例えば費用面では家賃、光熱費、生活用品、家電、家具がそれぞれの家で必要になり負担は二倍。また、両方を行き来する交通費や時間もかかります。今ならコロナ禍での移動による、感染拡大のリスクを避ける意識や行動も重要になってきます。田舎の人から「二拠点生活なんて都合が悪くなれば都会に帰るんだろう」と思われない程度に、地域の人たちとうまく交流する必要もあるでしょう。それらの努力を続けられるかどうか、負担を上手にやり繰りできるかどうか。これらも二拠点生活を行う上での大事な指標になります。

そして、二拠点生活に慣れ、自信が持てるようになれば、本格的な田舎暮らしへと移行していくのもありです。田舎暮らしや移住を考えている人は、まずは希望する土地の「お試し移住」の状況をチェックしたり、田舎暮らしの勉強会やセミナーなどに参加しながら“自分らしい暮らし”を探ってみてはどうでしょう。

■各県の移住・定住に関する情報

各県では、移住希望者に対し、宿泊体験ができる「お試し住宅」を用意しています。
（※利用には一定の条件があるので要確認）

埼玉県　千葉県　神奈川県　群馬県　山梨県